



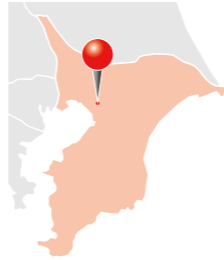
東京自動車興業株式会社 ボルボ・トラック東関東

トラクターヘッドを中心とした整備工場を持つ 日本初のボルボ・トラック専門ディーラー



店舗情報

東京自動車興業株式会社 ボルボ・トラック東関東
千葉県千葉市稲毛区長沼町342-2
TEL: 043-307-9735
従業員: 15名
(メカニック8名)
敷地面積:
4,636.41平方メートル



今回お話を伺った方



代表取締役社長
園分 秀太 様



ボルボ・トラック東関東
サービスマネージャー
梁 徳権 様

首都圏で大型車の整備・修理を中心に手がける同社は、2000年より新車販売も含むボルボ・トラックの正規ディーラー事業を開始。国産事業部と钣金センターを併設する同社千葉店(千葉県千葉市稲毛区長沼町301-1)内で運営され、2025年までの25年間でボルボ・トラック車の累計販売台数は500台、管理台数は200台以上に達しました。また、1946年の創業より80周年を迎えるにあたり、「次の100周年を目指した大きな投資」(園分社長)として「ボルボ・トラック東関東」の拠点を独立・移転。同じ長沼町内で2026年1月5日に新築オープンしました。

なお、他ブランドを併売しないボルボ・トラック専門の店舗は、この新しいボルボ・トラック東関東が日本国内初となります。そして、屋内に実車を展示するショールームを併設した店舗であることも、日本国内の大型車ディーラーでは類を見ない、同店ならではの特徴となっています。これは「営業サイドから強い要望があり、私が営業担当の頃にも『天候を問わず実車をゆっくり見てもらえるのがお客様にとって一番良い』と感じていた」(園分社長)ことが、大きな契機になったといいます。建築設計は、安全自動車からの紹介で大型整備工場の実績豊富な青島設計にお願いしました。

「女性スタッフの意見も採り入れながら作った」という同店のショールームおよび事務所は、「ボルボ・トラックならではの背が高いキャブを2階から見下ろせるという点でも特徴的」で、北欧デザインのモダンで明るく上質な調度類も、入庫するドライバーはもちろん、見学に訪れる同業他社からも好評です。

そしてサービス工場は、「ボルボ・トラックを担当するのが夢だった」という梁サービスマネージャーの想いが詰まった設計となっています。日本国内での取扱車種が大型トラックに絞られており、かつ「新車販売の9割5分以上がトラクターヘッド」(園分社長)というボルボ・トラックの特性に合わせ、天井が高く取られ、ドライブスルーも可能とした整備ストールには「4柱ツインパワーリフト(縦列対応)2基と、「2分割フロアリフト」1基を導入。また指定自動車整備工場への移行を目指し、完成検査場にはトータル車検ラインシステム「ラインマスター」など車検機器を完備しました。このうち「4柱ツインパワーリフト」は車検・点検、「2分割フロアリフト」はエンジンオイル交換などクイック整備のほか、トランスミッションのクラッチオーバーホールなど重整備にも活用されています。

そして、1ストールあたりトラクターヘッド2台を同時に入庫可能とし、メカニック1人が並行して整備。また「回転工具台車」と主要工具を各ストール間に配備・共有することで、「例えば2台分のタイヤ脱着を一度に行い、工具持ち替え回数低減や動線短縮を図っています」(梁サービスマネージャー)。

これらの工夫の結果、「千葉店ではお断りせざるを得なかった分の入庫を受け入れられるようになった」というボルボ・トラック東関東。「2028年までに年間入庫台数1300台、管理台数300台を目指したい」(園分社長)というその目標は、早期に達成されることでしょう。

ショールーム/事務所



▲大型車ディーラーでは類を見ない、トラクターヘッドを展示可能な屋内ショールームとボルボ・トラック東関東スタッフ(上)。応接室やドライバーの休憩室がある2階からショールーム全体を望め、ボルボ・トラックならではの背の高いキャブも確認できる(右)



▲屋上はウッドデッキや人工芝が敷かれた憩いの場。柵の向こう側には太陽光パネルを設置



▲明るくモダンな北欧家具が高級車ディーラーらしい落ち着きと上質感を醸し出す休憩室



▲メカニック用更衣室には常に清潔さを保てるように洗濯機とシャワールームを完備



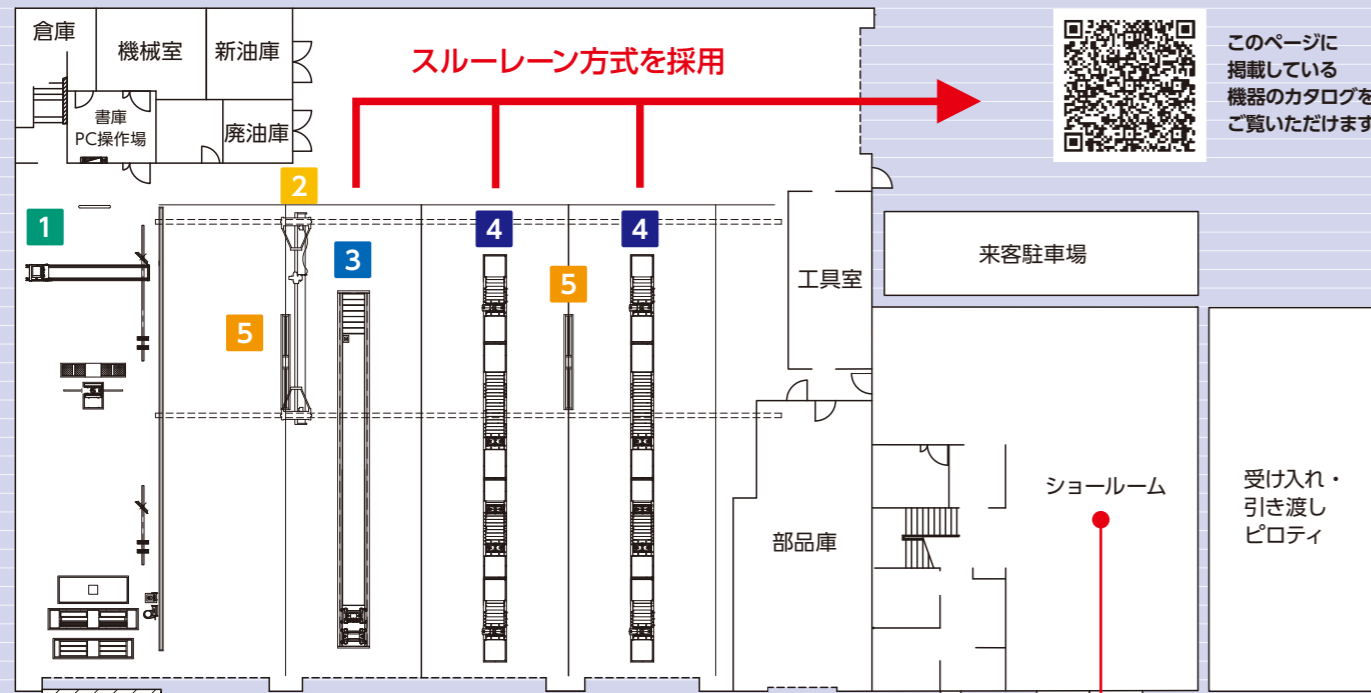
▲スタッフ用の大会議室。写真奥側の壁面は可動式で、小会議室とつなげることもできる



▲キッチン付きの食堂も、同社スタッフのこだわりが詰まった北欧デザインのモダンな空間

図面でわかる！
ここがポイント！

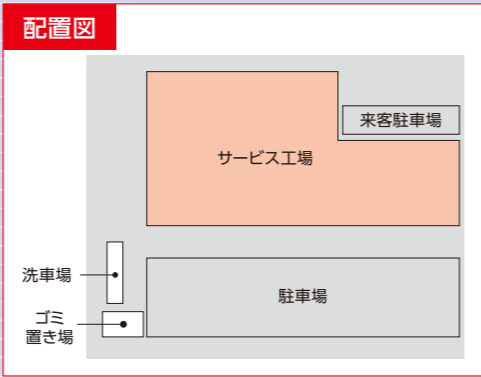
リフト納入で導線最適化を実現した最新サービス工場



このページに掲載している機器のカタログをご覧ください

- 平ストール
- 一般整備ストール
- 重整備ストール

- 完成検査ライン**
- 1 完成検査ライン(ラインマスター+手動式ヘッドライトテスター+サイドスリップテスター+BSテスター+フリーローラー)
 - 2 天井走行クレーン×1基
 - 3 2分割フロアリフト×1基
 - 4 4柱式ツインパワーリフト(TWPF60N)×2基
 - 5 自立式リール架台×2基
- その他 回転工具台車×4基、大型専用タッテラー Z×8基
- 洗車場**



工場をぐるっと紹介

動画はこちら

ショールーム、事務所、最新のサービス工場を紹介した動画もぜひご覧ください！

営業担当者のココがポイント！

本工場は、日本初となるボルボ・トラック専用整備拠点として、構想段階から数年をかけて計画されてきました。限りある敷地の中で、整備工場としての面積や導線、駐車場配置まで関係者全員で時間をかけて検討したことは、今でも強く印象に残っています。入庫車両の多くがトラクターヘッドである点を踏まえ、建物レイアウトからリフト仕様まで丁寧にヒアリングを重ね、最適な設備構成をご提案できたと感じています。また東京自動車興業様の“働く人に寄り添う”温かいご対応が、現場を進めるうえで大きなモチベーションとなりました。設備導入はゴールではなくスタート。今後もお客様の整備効率向上と収益最大化に向け、継続的にサポートしてまいります。



左：サービスマネージャー 梁様
中央：代表取締役社長 園分様
右：千葉営業所 加藤



▲サービス工場側から見た店舗全景。工場前のシャッターは車両の入出庫時以外は閉め、近隣住宅への騒音低減と冷暖房効率向上を両立



▲“ラインマスター”など最新の車検機器を完備した完成検査場。右側には隔壁を設置



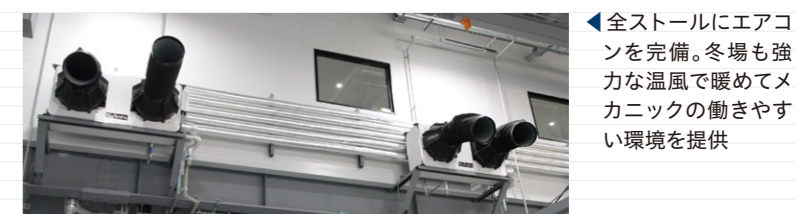
▲サービス工場内全景。入庫した車両はバックすることなく、右写真のシャッター側から出庫可能



▲天井走行クレーン(上)の設置に合わせて各整備ストール間に“自立式リール架台”を採用。クレーンを最大限活用できるレイアウト



▲4柱式ツインパワーリフト“2基で4台のトラクターヘッドを同時に点検整備可能とした



▲全ストールにエアコンを完備。冬場も強力な温風で暖めてメカニックの働きやすい環境を提供



▲2分割フロアリフトは2台同時のクイック整備と重整備のいずれにも安全に対応できる



▲“タッテラーZ”を用いて大型車のダブルタイヤも立ち姿勢のまま腰に負担をかけず交換



▲収納性の高い“回転工具台車”を納入